

卓 話

平成 22 年 9 月 21 日

『鮎の話』

松井順五会員

鮎はサケ目アユ科の淡水魚。日本列島、朝鮮半島、中国大陸東部に分布。琉球列島には亜種であるリュウキュウアユが生息する。全長 20～30cm。体は紡錘形で背びれの後ろに脂びれを持つ。体色は背側がオリーブグリーン、腹側は銀白色。胸びれの上部やえら蓋、ひれの縁辺が黄色味を帯びる。スイカのような香りがある。これが別名香魚といわれる所以である。この香は鮎が遡上するにつれて、珪藻しか食べなくなる事により発生すると考えられる。秋、河川の下流で産卵。孵化した仔鮎は海に下り、プランクトンを食べて成長する。春になると河川に遡上し、水性プランクトンや水生昆虫、藻類などを食べて成長する。寿命は普通 1 年である。これが鮎の別名を年魚といわれる所以である。ただし、まれに 2 年生きる個体もある。岐阜未来博の時、岐阜県水産試験場が 3 倍体の鮎を作った。体長が 60cm を越えるものを作ったが、この鮎は生殖能力もなく、市場価値も低かったため、以後生産は途絶えました。



・ 鮎の基礎知識（いつどこにいるのか？）

鮎の分布域は東アジア（日本列島、朝鮮半島、中国大陸東部）で、その中心部は日本列島である。石についた藻類（コケ）を主食にしているため、藻類が育つ環境、即ち水がきれい、川底に藻類が付着しやすい石があるという条件が必要となる。こういった条件は日本の河川に特徴的に見られる。そう考えると、鮎とは日本の風土と河川に適応した魚とすることができる。

鮎は一年という短い一生のうちに海と川を行き来する回遊魚である。

①鮎の遡上期

鮎の遡上は 2 月中旬から始まり、3 月中旬から 4 月中旬が最盛期となる。遡上は河口からおよそ 80km くらいと言われている。長良川で言えば、白鳥あたりまでと言われている。

②河川定着期

川に遡上した鮎は、淡水プランクトン、水生昆虫、川底の石に付着する藻類などを食べながら成長し、やがては藻類のみを食するようになり、初夏には 20cm 前後まで達し、この頃から自分の餌場占有するためのテリトリー即ち「なわばり」を作ることが多くなる。なわばりを持った鮎は黄色を帯び胸に 2～3 条の鮮やかな黄斑を持つ。これは鮎は黄色を識別する能力に優れており、なわばりを持つ個体が黄色くなることで、お互いの識別が容易になる。その結果、なわばり鮎同士では無駄なケンカを避けることができ、また、なわばりを持たない鮎に対しては「私有地につき立ち入り禁止」の看板のような意味を持っている。なわばりの広さはおおよそ 1 メートル四方程度で、真に死守できるのは 30～50cm 四方と思われる。このなわばりに他の鮎が入って来た時には、必死で体当たりをして、この私有地から追い払う習性を持っている。この習性を巧みに利用した釣りが鮎の友釣りなのです。

③降下期

9 月から 10 月になると成熟し始め、産卵のため下流へと下降するようになる。これがいわゆる落ち鮎で、抱卵で体重が増し、急流でとどまることが困難となり徐々に群れを形成しつつ下降を始める。この時期の鮎がヤナにかかるのです。

④産卵期

下流部に集まった鮎は浅瀬の小砂利底で産卵します。産卵は10月から12月にかけて行なわれ、夕方から夜の8時頃に行なわれる。

⑤孵化・流下期

鮎は産卵後2週間で孵化する。孵化した仔魚は夕方から夜間に集中的流下し海に下る。孵化直後の鮎は5~7mmで卵黄嚢を持っていて、この卵黄嚢から栄養を受けて3~4日は餌を食べなくても生きていくことができるので、この時間で一気に海まで下降し、海で多量のプランクトンを食することができ成長する。

⑥河口（汽水域）・海域生活期

鮎の子は最大10月から5月まで延べ8ヶ月間も海にいることになる。最短のものは3ヶ月程で海水生活を終了し、生まれた河川に遡上する。暖かい地方の鮎は海の生活が短く、寒い地方の鮎は海の生活が長い。

・ 鮎の捕獲方法

(1)網

(2)ヤナ

(3)鵜飼

(4)ドブ釣（毛針を用いた釣）

(5)コロガシ(通称ガリ)：多数針（10~30本）を上下に動かしたり、遠投して引き回し、無理矢理鮎を引っ掛ける。

(6)友釣り：鮎の習性を最も巧みに利用した釣り方で、餌とか疑似餌とかを一切使用しないで、生きた罔（おとり）の鮎の尻びれ付近に掛け針をつけて罔を操り、なわばりを持った鮎のテリトリーにいて、これをなわばり鮎が体当たりして追い出そうとした時、罔鮎の掛け針にかかるという釣。